

学校教育目標	信頼と共感 ～夢をもって挑戦し続ける生徒たち～ ◇育てたい生徒像◇ 【知】自ら考え行動し、意欲的に学び続ける生徒 【徳】ルールやマナーを守り、人を思いやる優しい生徒 【体】心身をきたえ、たくましく生きる生徒 【公】役割を自ら求め、地域や社会に貢献する生徒 【開】共生・多様性を尊重し、未来を創る生徒			
	創立 80 周年	学校長 小嶋 貴之	副校長 榊原 裕木	3 学期制 一般学級: 14 個別支援学級: 3
学校概要	児童生徒数: 497 人 主な関係校: 中川小学校、南山田小学校、牛久保小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中川中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<ul style="list-style-type: none"> ・得た知識を生かして、自ら考え判断し、行動する力 ・意欲をもって、主体的に学び続ける力 ・多様性を尊重して、共に生きようとする力 	中川中学校 中川小学校 南山田小学校 牛久保小学校	自分も他者も大切にしながら、豊かな学び合いができる子ども ・「よりよい人間関係を築くために必要な力」育成のためのキャリア教育の充実。 ・「自ら考え、判断と行動ができる力」や「主体的に学び続ける力」の検討と共有。 それらを意識し、ICTの活用データによる研究授業の推進。 ・個に応じた指導体制づくりを進めるための、児童生徒指導や特別支援教育における子どもの姿をもとにした情報交換と研修の推進。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主役となる学校づくりを進める中で、生徒の自尊感情を育てる教育環境を整え、「信頼と共感」を教育活動の根幹にします。 ○生徒が主体的に参加する、わかりやすい授業づくりを実践・推進します。 ○生徒が安心して学校生活を送ることができるように、ルールやマナーに関する規範意識を高め、生徒支援の充実、人権尊重の精神を基盤とする学校づくりを進めます。 ○小中一貫教育を推進する中学校区ブロックや地域・学校、また地域・生徒との懇談会等で連携を図り、生徒が地域で活躍し信頼される「地域の学校づくり」を進めます。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①授業では目標や評価規準、学習課題を生徒にわかりやすく提示するとともに、確実に力が身に付くように授業展開を工夫する。②「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るため、生徒の実態や意見、学力・学習状況調査のデータ結果を生かしながら、授業改善に努める。③教育DXの研究を進め、GIGA端末やAI型教材等の活用による教育効果を高めていく。
徳 豊かな心	①道徳年間計画に基づき、各学年で特別な教科・道徳の授業を進め、別葉を活用して教育活動全体で生徒の豊かな心を育む。②子ども会議のテーマを基に人権について話し合い、生徒の意見を取り入れることで、いじめの未然防止の取組につなげる。③「PayForward」の考えを柱としながら、一人ひとりの個性を認め合い、自分の思いを安心して表現できる学校づくりを行う。
体 健やかな体	①身体計測・新体力テストの実践を通して自分の体や体力について知り、自らの健康の保持増進や体力の向上につなげる。②心身の健康の保持増進のために教育活動全体を通じて学習できるよう教科や特別活動との連携を図る。
公 開 特別活動	①「Pay Forward」と「Greeting Day」の二本柱を中心に、生徒の自主性の育成と活動の充実を図る。②生徒会本部と各委員会間の連携をGIGA端末を用いて充実を図り、共同で取り組める活動の充実を図る。また中央委員会をより活性化し、生徒の自治的活動を積極的に行っていく。
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会で情報を共有し、記録を取り、進捗を管理する。議事録については、毎月全職員に共有し、組織的に見守り体制を整える。生徒たちの気持ちに寄り添う対応に努める。②いじめ防止や危機管理の研修を実施し、教職員の意識や理解、対応力を高める。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①「安心・安全」、「授業」が最優先されたバランスの良い教育課程を編成していく。②「働き方改革」の視点から、業務分担の偏りの解消、校務分掌の平準化、組織・会議の合理化を実践する。③年度末反省の時期だけでなく、いつでも意見が出せるような場をネットワーク上に作り、大きく変わらなくとも「小さく」「いつでも」改善していけるように体制を整える。
特別支援教育	①個別支援学級と特別支援教室、一般級の状況を常に把握・共有するため、アセスメントシートの活用を進める。②様々なニーズに対応できるよう、特支Coが中心となって、組織的な支援を行う。また、学校全体としての取組として深められるよう、情報共有を行う。③「誰一人取り残さない学校・社会」を実現するため、対立を対話で乗り越えるスキルを教員自身が獲得する。
地域連携	①学校だよりや学校ホームページを通して、学校の様子を伝え、地域の理解と信頼を深めていく。②生徒が地域社会の一員として主体的に活躍できる場を建設的に調整する。また、授業などを通して、地域と連携できないか検討する。
生徒支援	①教育相談や毎日の健康観察、Y-Pアセスメントなどを活用し生徒の実態や変容を捉え、指導・支援へ繋げていく。②全教職員がより組織的に動いていけるように、研修等を計画・運営する。③生徒主体で学校生活をより良くしていけるように、生活委員会の活動を活性化させる。
学校運営協議会	①小中ブロックで運営協議会を持つことで、小中一貫教育の充実を図る。②地区懇談会を中学校の教育活動について理解しあい、交流を深める場として位置付ける。③キャリア教育のまとめとして、3学年の卒業期に実施する「自分を語ろう」で委員が助言者として立ち会う。④創立80周年事業に向けて連携を図る。